



# 図書館報第42号

## 目次

|              |    |
|--------------|----|
| 知の集まる場所～図書館  | 2  |
| 先生お薦めの本      | 3  |
| 図書委員お薦めの本    | 8  |
| 図書委員活動報告     | 10 |
| 校内読書感想文コンクール | 11 |
| 雑誌紹介         | 14 |

## 知の集まる場所～図書館

図書館長 大田肇

私は、「法」「政治」などについて学生諸君に教えているため、その方面のことが気になります。と同時に、「人間」のあり方にも興味があるというか、それに関する迷いがどんどん広がっていくような気もしています。

個人的な経験から、私は癌という病気、さらにその病気をもつ破壊的な悪性に立ち向かおうとする人々に関心をもっています。

数年前に本校の H 先生が癌で亡くなられたとき、その葬儀場の入り口に先生が奥さんと四国巡礼をされたときの写真がたくさん置かれていて、先生の「闘い」の一端を見たような気がしました。

癌患者は迫り来る「死」と闘わなければならない。

「死の恐怖」と闘わなければならない。そのとき、家族は、医師は、友人は、同病者は、何ができ、できないのだろうか？ そして終わった後に何が残るのだろうか？

「癌の発見」から始まるそれらの人々の動き方は、千差万別ようです。多くの人達に「感動」を与えるような物語がある一方で、重苦しい空気の中で過ぎ去ってしまう物語もあるのでしょうか。

でも、そうした様々な物語の中から、将来のあるべき姿を見つけ出す努力をするべきではないでしょうか？ ひとつの目印として。

しかし、どの物語が目指すべきもので、どの物語は捨てられるべきものか、を識別しはじめると、そこには問題があることがわかります。例えば、「癌と闘うべき」なのか、「癌と共生すべき」なのか？ この問いに対する答えは、その人の置かれた具体的な環境（刻々と変化する）を考えないと出てこないでしょう。こうして、素人も玄人も、迷いの中に入り込んでいくことになります、羅針盤を持たずに。

こうした困ったとき、我々は様々な対応を試みます。私の対応方法のひとつは、図書館に行くことです。そこに眠っている、これまでの数千年間の人間の経験から、導きの糸を見つけ出せそうな気がするからです。

もちろん、昔の人達の知恵が、今の私たちの問題をすぐに解決してくれるとは思われません。でも、我々の先輩たちの中には、今の私たちと同じかそれ以上に、同じような問題に悩み苦しんだ人がいたであろうことは間違いないでしょう。それらを支えにして、我々はやっと前を向くことができるのではないのでしょうか。

図書館はこの3月から改修工事にかかります。11月頃には新装の図書館が開館することになります。この間、不便をかけますが、少し我慢してください。

## 先生お薦めの本

先生から学生へ向けてのお薦めの本を紹介します

一般科目 侯野好治 お薦めの本

### 「飛鳥の木簡 ―古代史の新たな解明」(中公新書)

著者：市 大樹，出版社：中央公論新社

今から約 50 前、奈良の平城宮跡から初めて木簡が出土しました。木簡とは木片に墨で文字を記したもので、記録やメモ、官庁間での連絡、物品の荷札などとして利用されました。当時はすでに紙が存在する時代でしたが、紙は貴重であったことや、紙より木の方が移動を伴う際の情報の伝達に便利である（紙は破れるなど難点がある）ことなどの理由で使用されたようです。最初の木簡の検出から約 50 年がたって、現在では全国の遺跡から、約 38 万件近い木簡が発見されています。とはいっても、完全な形で発見される木簡はほんの一部で、多くは折られたり、割られたりしたものです。また、一度使用した木簡の表面をナイフのようなもので削り、再使用した削り屑も多数出土しています（発見された木簡の 7・8 割はこのようなもの）。平城宮で最初に発見された木簡は、近くにあった法華寺から食料を請求したのですが、使用后ゴミとしてゴミ溜め穴に捨てられたのです。数年前、この木簡が国の重要文化財に指定されました。ゴミとして捨てられたものが、1300 年後に重要文化財に指定されるとは、これを書いた人もまったく予想もしていなかったことでしょう。木簡の魅力は、これまでの古代史の史料からはわからなかった事実が新たに浮かび上がってくることです。本書は、こうした木簡が、わが国において使われ始めたころのことを、比較的わかりやすく記した一般向けの書です。日本の古代史に興味がある人は、ぜひ一読をお勧めします。

一般科目 江原由美子 お薦めの本

### 「掌の小説」(新潮文庫)

著者：川端康成，出版社：新潮社

「本を読んでみようかとは思うけど、長い文章を読むのは苦手…」というあなたにお薦めなのが、短編小説集です。パラパラとページをめくって、その日の気分で作品を選び、読みたいところまで読む。これも立派な読書です。

短編小説の名手というと、真っ先に思い浮かぶのは、ショートショートで有名な星新一かもしれません。しかし、短編小説を得意とする作家は、他にもたくさんいます。今回ご紹介する川端康成も、その一人です。

川端康成は、『雪国』『伊豆の踊子』といった名作を遺した作家であり、ノーベル文学賞受賞者です。それゆえ、固く難解な印象を持っている人もいるかもしれません。しかし、この『掌の小説』を開けば、そのイメージは一変すると思います。ぜひ、珠玉の短編小説、そして、その作品の余韻を楽しんでみてください。

一般科目 廣木一亮 お薦めの本

### 「ミンナ・フォン・バルンヘルム」(岩波文庫)

著者：レッシング (小宮曠三訳)，出版社：岩波書店

### 「群盗」(岩波文庫)

著者：シラー (久保 栄訳)，出版社：岩波書店

## 「若きウェルテルの悩み」

(岩波文庫)

著者：ゲーテ (竹山道夫訳)、出版社：岩波書店

「隠れ文系」である私が、昨年のフランスにつづき 18 世紀ドイツを知る 3 冊を紹介しよう。いずれも岩波文庫で読める。

### (1) 『ミンナ・フォン・バルンヘルム』

七年戦争後の混乱の中、無実の罪で免官浪人中のテルハイム少佐。そんな少佐を追ってやってきた婚約者のバルンヘルム嬢に「自分は貴方に相応しくない」と彼は言う。高潔な人が心から相手を感じる時、どう行動するのかを描いた喜劇。愛し合うがゆえのすれ違い、癖のある脇役たちの活躍にも注目。

### (2) 『群盗』

モール伯爵の長男カールは、弟フランツの陰謀で父や恋人と引き離され絶望する。人望ある彼は盗賊団の首領となり、やがて恋人や弟の前に現れる。まさにシュトゥルム・ウント・ドランク (疾風怒濤) の駆け抜けるようなテンポで、本当の正義とは？ 愛とは？ 自由とは？ を問いかける戯曲。

### (3) 『若きウェルテルの悩み』

心やさしく感じやすい青年ウェルテルは、既に婚約者のいる美しい娘ロッテに心を奪われる。寝ても覚めても彼女しか考えられなくなった彼が、叶わぬ恋に心を病み、たどり着いた結末とは？ 豊かな自然の描写も秀逸。なお、この作品はドイツのみならずヨーロッパ全域にウェルテル熱とでもいうべき熱狂を生み出した。

一般科目 安木真一 お薦めの本

## 「何でも見てやろう」(講談社文庫)

著者：小田 実、出版社：講談社

## 「青年は荒野をめざす」(文春文庫)

著者：五木寛之、出版社：文藝春秋

## 「深夜特急<1> ～ <6>」(新潮文庫)

著者：沢木耕太郎、出版社：新潮社

## 『『達人』の英語学習法

## ーデータが語る効果的な外国語 習得法とは」

著者：竹内 理著、出版社：草思社

## 「英語難民を必ず救う本

## ー335 点を 875 点にした私の TOEIC テスト練習法」

著者：竹内 理著、出版社：中経出版

## 「チョコレート工場の秘密

## ー Charlie and the Chocolate Factory」(講談社英語文庫)

著者：Roald Dahl、出版社：講談社インターナショナル

筆者のおすすめの本を 2 つの観点から紹介する。私は英語教師なので、一つは海外への視点、もう一つは外国語への視点である。

若い頃、時間を見つけてはバックパックを背負って海外の街を歩き回っていた。その契機になった本を紹介する。小田実 (おだまこと) の「何でもみてやろう」は彼がフルブライトの留学生で行ったアメリカからヨーロッパ、アジアを経て日本に帰国するまでの過程を述べている。若者による海外旅行記のはしりである。彼はすでに故人で数十年前の作品であるが、今読んででも非常におもしろい。彼のポリシ

一が「社会のあらゆる面を見る」という事で、高級ホテルに泊まるかと思えば、インドの路上で寝てみるなど広い視野から当時の世界を見ている。その後、小田実社会運動家として名を馳せ、作品も社会の矛盾をつくものに変わっていく。五木寛之（いつきひろゆき）の「青年は荒野を目指す」はフィクションだがこれもお勧めである。五木寛之は、最近では仏教を基盤にした人生論を描いているが、若い頃の作品には宗教色はなく青年の生き方に示唆を与えるものが多く見られる。その他、旅行記では沢木耕太郎の「深夜特急」が、バックパッカーの間でバイブルとなっている。皆さんもこれを読んで海外に出ていく契機にしてほしい。

英語に関する本を紹介する。まず「こうやって勉強すればよい！」という学習法の枠組みを教えてください。竹内理著『達人』の英語学習法「データが語る効果的な外国語習得法とは」がよい。ほとんどの学習本が自分の経験値に基づいているが、この本は「英語の達人」へのインタビューや学習本の分析により客観的なデータを出す事により学問的裏付けがなされている。TOEICなどの資格試験対策を目指す人は鹿野晴夫氏の一連の著作を読むとよい。彼自身英語が苦手な「元・英語難民」で、TOEIC初受験時は335点だったが、わずか3年半で850点までスコアをアップさせた。ちなみに彼は私の知人であり、彼から多くの事を学んだ。工学部出身で現在英語トレーナーである。全国の企業、大学、高校などで学習法の講演を行っているカリスマ講師である。1冊だけ読むとすると「英語難民を必ず救う本—335点を875点にした私のTOEICテスト練習法」が良い。英語で書かれた本でおすすめは「チョコレート工場」の秘密 - Charlie and the Chocolate Factory【講談社英語文庫】が面白くて簡単に読める。読み終わるとほろりとくる。映画を見た後で読むと、単語がわからなくてもすらすらと読むことができる。1冊読み終わると英語の本を読む自身をつけることができる。

最後にもう1冊「私の著作を紹介！」と言いたいところだが、学生向きの本は構想だけでまだ何も書いてない。忙しくて棚上げしたままである。数年以

内には書き上げて皆さんに紹介できるよう私もがんばらねばならない。

一般科目 渡利正弘 お薦めの本

## 「アルジャーノンに花束を」

（ダニエル・キイス文庫）

著者：ダニエル・キイス、出版社：早川書房

この本は知る人ぞ知る王道の本です。あまりにも有名なので今更、紹介するまでもないかもしれませんが。アメリカの作家ダニエル・キイスによるこの小説は、チャーリー・ゴードンという知的障害を持った青年が主人公で、彼の視点から綴られています。日本語訳の文庫本の最初の数ページをめくると、何じゃこりゃ！というくらい読みにくくビックリします。チャーリーは幼児並の知能しかなく、彼の書く文章がめちゃくちゃだからです。それが読み進めるうちに、どんどん読みやすい文章になっていく。実は脳手術を受けることにより、チャーリーは極端に知能が発達してしまうのです。頭がよくなるとともに、勉強をする喜びに目覚めるチャーリー。すると今までわからなかったことが見えてくるのですが……。ちなみにアルジャーノンとは、チャーリーに先駆けて手術を受け、知能が発達したネズミで、最後には死んでしまいます。自分の近い将来を暗示するアルジャーノンにチャーリーは何を思ったのでしょうか。思いがけず天才になれたのに、それが必ずしも人間の幸福とは結びつかない。これから自分の人生を切り開こうとする皆さんに是非呼んでもらいたい本です。小説のラストは、表題にもなっている「うらにわのアルジャーノンのおはかに花束をそなえてやってください」という一文で締めくくられています。この一文を読むと、とても切ない気分させられます。まだ読んでことのない人は、是非読んでみて！

情報工学科 大西 淳 お薦めの本

## 「鍛えて最強馬をつくる —「ミホノブルボン」はなぜ名 馬になれたのか」

著者：戸山為夫，出版社：かんき出版

大学院生時代、競馬にはまっていた。毎週月曜日、その前の週末に全国で行われた48レース、季節によっては72レースの結果を分析し、見込みのある馬と案外な馬を選び出した。そして、来る次週のレースに向けて検討を行っていた。(注意 馬券は買っていません。)

このように競馬にはまった人に話を聞いてみると、多くの場合、そのきっかけとなった馬が存在する。私も例外ではなく、私の場合はトウカイテイオーであった。クラシック三冠を含むGI7勝をあげ、日本史上最強馬とも言われるシンボリルドルフを父に持つトウカイテイオーは、父と同じように無敗でクラシック二冠を達成した。しかし、骨折により三冠馬の称号を逃した。そして、その翌年、再び無敗のクラシック三冠に挑戦する馬が競馬界を席卷した。ミホノブルボンである。

ブルボンは、テイオーと全く異なる馬である。「皇帝」シンボリルドルフを父に、オックス馬トウカイローマンを伯母にもつ、いわゆる良血のテイオーと比べると、ブルボンの血統はあまりぱっとしない。また、生涯足もとの不安に悩まされ続けたテイオーに対し、ブルボンは、脚に負担をかけない調教と言われる坂路調教で鍛えられた先駆けと言われる。

ブルボンを世に送ったのは、戸山為夫・元調教師である。戸山師の期待もはじめはさほど大きくなかったという。しかし、インターバルトレーニングを取り入れた戸山流スパルタ調教によって頭角を現し、後に「サイボーグ」とまで賞された筋肉美をトレーニングで身にまとった。テイオーは、足もとと不安で強い調教を積めず、天賦の才で走り抜いた。

戸山師の指導熱の対象は馬にとどまらない。自身、

体格に恵まれたせいか、騎手時代には減量に苦しみ、大一番になると別の名騎手に持ち馬をとられるという屈辱を重ねたという。そのため、調教師に転じてからは自厩舎の騎手を大変かわいがり、馬主にはこれらの騎手と専属契約を結ばせた。その代わり、その待遇に見合うよう、騎手たちを厳しく育て上げた。馬を200m走らせたときの走破タイムに0.1秒の狂いも許さなかったと聞く。

このような戸山師の厳しいながらも愛情に裏打ちされた教育的思いやりは、すべての競馬関係者とその家族その子供にも向けられていた。彼らが「競馬場の子だから」と色眼鏡にかけられないために。戸山師の思いが彼らに十分伝わっていることは、弟子である小島貞博・元騎手・元調教師による本書の序論や皐月賞後のインタビューから見て取れる。本稿を書くにあたって思い返してみれば、「教育」に関してまともに教育されていない私にとって、教育に対する姿勢形成にこの本が与えた影響はとても大きかったと感じる。

残念ながら、先日、小島師は自らの命を絶った。報道を信じれば、その原因のほとんどは小島師自身にはないようである。小島師の無念が偲ばれる。しかし、より気にかかるのは先に天国へと旅立っていた戸山師の心中である。弟子の下した決断をどのような思いで見守っていたのだろうか。二人は天国でどのような再会を果たしたのであろうか。

情報工学科 藤田一寿 お薦めの本

## 「ハッカーと画家 —コンピュータ時代の創造者たち」

著者：ポールグレーム，川合史朗（監訳）

出版社：オーム社

自分の変人なので周りから疎外されている、と感じている人はいないか。大丈夫だ。「オタクが世界に馴染めないのは、ある意味一歩先をいつているから

だ」と著者はいつている。社会から疎外感を感じている変わり者だからこそ、常識にとらわれた人たちが気づかない「良いデザイン」に気づくことができるのだ。「良いデザイン」はものづくりにとっても、会社経営にとってもきわめて重要である。それは Apple や Samsung のような「良いデザイン」にこだわった企業が成功していることから分かると思う。これからビジネスパーソンとして生きていく君たちに必要なのは「それぞれの事柄について、それが最も有効に働く」「良いデザイン」を導き出す力なのだ。今変人と呼ばれている君たちは「良いデザイン」を導き出す資質がある。自信をもって進んでいこう。ただ忘れてはいけない。変わっているだけではだめなんだ。ちゃんと勉強をし、博士号をとっている著者は言っている。「ハッカーはハックしながら学ぶ」。すなわち自分で行動を起こさなければ身につかないということだ。

電気電子工学科 掛橋英典 お薦めの本

## 「仕事の哲学」

著者：P.F. ドラッガー、出版社：ダイヤモンド社

P.F. ドラッガーはビジネス界で有名な思想家でマネジメントに関する数多くの著書を残しています。その理論・体系を理解するのは容易ではありませんが、おいしいところだけをまとめたドラッガー格言集（全4冊）なるものが出版されています。そのシリーズのうちの一冊がこの本で、内容が平易であるとともに学生から社会人まで日常生活における指針のひとつとして役にたちそうな気がします。たとえば、就職を前にした学生については「何をしたら良いかではなく、自分を使って何をしたいかを考えよ」と述べ、また社会人となって仕事で成果をあげるためには「実践的な能力を積み重ねよ。普通の人であれば実践的な能力は身につけられる」と説いています。いろいろと考えさせられる本です。

## 読書のすすめ

情報工学科 大平栄二

中学校の時、SF小説の感想文を書いて先生からあきれられるほど、ほとんど本を読まない学生でした。それが、ある日、先輩社員から「上司が大平君は読書家だねと言っていたよ」と言われて驚いたことを思い出しました。二十歳頃から本をよく読むようになり、通勤電車でも本を読んでいたように思います。きっかけは、確か司馬遼太郎氏の本だったと思います。よく言われているように、本は居ながらにして知らない世界を見せてくれます。中国の歴代王朝は、前の王朝を倒したとき、まず財宝ではなく国立の図書館を抑えたといわれています。何の本でもいいと思います。あまり本を読まない人は少しずつ本を読んでみましょう。きっと自分自身の世界が広がっていきます。



## 図書委員お薦めの本

ここでは図書委員によるお薦めの本を紹介します。

1年4組 山本 桜 お薦めの本

### 「アヒルと鴨のコインロッカ

ー」(創元推理文庫)

著者：伊坂幸太郎，出版社：東京創元社

この物語は二人の青年がモデルガンを持ち、ボブ・ディランを歌いながら本屋を襲撃するシーンから始まります。ボブ・ディランを歌う青年、主人公・椎名がこの町に引っ越してきたのは本屋襲撃の二日前。住むことになったアパートで最初に出会ったのはしっぽの先が折れ曲がっている猫、次に出会ったのは全身黒い服をまとっている河崎と名乗る隣人でした。河崎は初対面である椎名に「一緒に本屋を襲わないか」と持ちかけます。目的は一冊の広辞苑で、理由を同じ階の外国人にプレゼントするためだと語る河崎。そんな椎名と河崎、そして本屋襲撃の物語は“現在”。この“現在”と“2年前”の物語が交差していきます。2年前、ペットショップ店員・琴美とブータン人のドルジは一緒に生活をしていました。野良犬・野良猫、さらにペットや売られている犬猫まで殺されるという「ペット殺し」が発生します。そんな中、怪しい3人組を発見する琴美とドルジ。奴らがペット殺しの犯人なのか？そんな中、琴美の元恋人・河崎はドルジに日本語を教えたり、琴美のペットショップに現れたり、バッチングセンターで居合わせたり、病院に通ったりと不思議な行動をとり始めます。2年前と現在の関係は何なのか、河崎が本屋を襲撃する本当の理由、ペット殺しの終末、2つの物語に関わる河崎は何者なのか…など物語を読み進めるごとに多くの謎が解明されていきます。

この本のおもしろいところは、読むほどに謎が出てきて、またその謎が徐々に解明されていくところ

です。他にも、2年前と現在が実は深いところにつながっているのではないかと考えさせられるようなところも面白いです。たとえばペットショップの店長・麗子は現在でも店長をやっているし、2年前に動物園からレッサーパンダを盗もうとしている少女と車いすの弟は、現在でも諦めていません。たくさんのつながりがあるのに琴美が現在の物語に登場しないのはなぜなのか、そんなことを考えながら読み進めていくのも面白いと思います。ぜひみなさんにも同じ面白さを味わってほしいと思います。

この作品を書いた伊坂幸太郎にはたくさんの作品があります。デビュー作『ゴールデンスランバー』は疾走感が、『終末のフール』では切なさが味わえます。高専の図書館には他にも伊坂幸太郎の作品が置いてあるのでぜひ読んでみてください。

1年4組 山本 桜 お薦めの本

### 「塩の街」(角川文庫)

著者：有川 浩，出版社：角川書店

ある日突然、日本全土に真っ白な巨大隕石が落下し、それと同時に多くの人が塩の彫像と化してしまった。それは塩害と名付けられ、被害はどんどん広がり、関東圏の人口は三分の一となってしまう。塩害で両親を亡くした少女・真奈は崩壊寸前の東京で元自衛官・秋葉と出会い、奇妙な共同生活を送る。様々な人々と出会い、様々な思いを抱きながら生活する二人。そんな二人のところへ一人の来客が訪れ、二人と世界の運命が変わってゆく…。

この本はSFが好きな人にも、恋愛小説が好きな人にもどちらにもおすすめできる本です。突如、塩の塊が空から降ってきて人が塩化してしまうというぶっ飛んだ世界観で、入り込めるとは思えないかもしれませんが、読んでいると夢中になってしまうというのがこの本のいいところだと思います。崩壊していく世界で真奈と秋葉は無事でいられるのか、塩害の終焉はやってくるのか、1ページめくごとにハラハラさせられます。早く読みたい、だけどじっくり読みたいとつい思ってしまうような物語です。

これは著者・有川浩のデビュー作です。代表作はこの『塩の街』と『空の中』『海の底』の3作通称・『自衛隊三部作』シリーズ、2008年にアニメ化・2012年にアニメ映画化、また2013年に実写映画化が予定されている『図書館戦争』シリーズ、他にも2010年にドラマ化された『フリーター、家を買う』などがあります。この本を読んだあとはぜひ有川浩の他の著作も読んでみてください。高専図書館にも揃っているのでぜひ探してみてください。

情報工学科3年 福嶋 将 お薦めの本

## 「不思議の扉 一時間がいっぱい

い」(角川文庫)

著者：大森 望編、出版社：角川書店

僕がおすすめするのは角川文庫発行の『不思議の扉～時間がいっぱい～』と言う本です。この本のタイトルは総称であって、内容は7人の作家による7つの短編小説が記載されています。

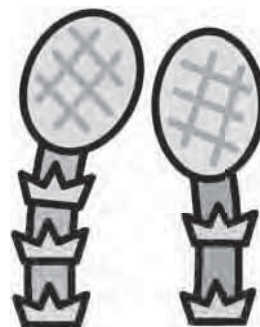
内容はすべて時が関係する話ばかりで、いわゆるSF感が強い作品が多く入っています。中にはホラーや、ほのぼのするような内容の話もあり、幅広い層が読める一冊になっていると思います。

この7作品の中で僕が特に印象に残っている話で、

ある一定の時間がループするという話があります。

7作品中2作品に時のループの話があったのですが2作品とも全然違ったイメージを受けました。ページを開いて一番最初にある、筒井康隆『しゃっくり』。これは10分間の時間を何度もぐるぐるループしてしまう話で、もう一方の星新一『時の渦』はゼロ日時と言われる日から毎日同じ日が続くという話です。最初に述べた『しゃっくり』、これはどこへ行っても何をしていても10分経てばまた同じ場所へ戻ってきてしまう。記憶はなくなる、何もできず何度も同じような10分間を繰り返す、その中で徐々に見えてくる人間の狂気や本能を描いた作品になっています。後者の『時の渦』、これは1日が繰り返されるが、行動が繰り返されたりデジャブ的なことがおこるわけではなく、ただ、季節が止まり、毎日同じ天気、前日に消費したはずの食べ物などが次の日には存在する。そういう繰り返しです。しかし、不思議な事にただ繰り返されているわけではなく、ゼロ日時の2週間前に死んだ人がゼロ日時から2週間後に生き返っている。3日前に死んだ人は3日後には生き返っている。時間が経つにつれ人々は死者になすりつけてきた罪に向き合うことになる。最後は不思議な終わり方をしますが、フィクションでしか起こり得ない状況で、いろいろ考えさせられる作品になっています。

他にも映画化もされた『ベンジャミン・バトン ～数奇な人生～』や涼宮ハルヒの憂鬱シリーズの『エンドレスエイト』という話も入っており、誰が見ても楽しめる1冊だと思うので是非読んでみてください。



# 図書委員活動報告

## ブックハンティング

ブックハンティング班では今年度、7月は津山ブックセンター本店にて、12月は喜久屋書店津山店にてブックハンティングを行いました。7月は2名、12月は5名で行いました。

高専生に対して必要と思われる電気やプログラミングの本だけでなく、小説や新書、趣味系統の本など、幅広いジャンルから個人の趣向に偏らないよう注意して、様々な本を購入しました。

購入した本はすでに図書館に入っていますので、ぜひ手にとって読んでみてください。本にはいろんなワクワクや発見が詰まっています。この機会に、今まであまり本を読まなかった人も、いろいろ読んでみてはいかがでしょうか。(情報工学科4年 高田)

## 弥生祭催し物関係

弥生祭担当では、例年に引き続き古本市を行いました。本格的な準備を始めたのは夏休み明けでした。市立図書館との打合わせは前期末試験期間と重なったので、長井先生にお願いしました。

そして日は過ぎ、弥生祭前日になりました。市立図書館に持って来ていただいた本の種類は、経済系統や哲学系統の本が多く、これは持ち帰っていただける冊数がすくないなと思っていました。しかし、いざ弥生祭を終えると、本の搬入時に836冊だったのが搬出時には651冊になっており、全体で185冊の本を持ち帰っていただけました。予想に反して多く持ち帰っていただけてうれしく思いました。しかし、問題もあります。次回の弥生祭では、もう少し読みやすい本を増やしたいと思います。それと、今回の反省で、学生からの古本の提供も行う予定です。最後に、今回の弥生祭で本はいくら古くなくても知識を得たい人にとっては宝なのだと思います。(電子制御工学科4年 渡辺)

## 図書館利用・読書奨励活動

図書館の利用促進および読書奨励の活動を行っています。年度当初に活動内容を決定し活動してきました。主な活動内容は以下の通りです。

- ①先生方に担当科目に関するお勧めの本をご紹介いただく。
- ②先生方のオンラインジャーナル利用頻度について調査アンケートを行う。
- ③お勧めの本を集計し、各クラスに掲示するポスターを作成する。
- ④オンラインジャーナルの利用頻度のデータを集計し、表に現れない図書館の利用状況を把握する。  
各クラスにポスターとして掲示する。

これに基づき、6月に年間活動計画を策定し、アンケートを作成し(7月)、各先生方にアンケートを実施、集計、ポスター作成しました(9-1月)。アンケートの結果、各科目において有意義な本を多数ご紹介頂けました。また、オンラインジャーナルの利用頻度が高いことも判明し、図書館が研究活動に大いに役立っていることが分かりました。(機械工学科4年 松岡)

# 校内読書感想文コンクール

1年生の読書感想文の中から、図書委員により優秀作品を選びました

## 1位 「燃えよ剣」を読んで 1年4組 戸田直人

「燃えよ剣（上），（下）」（新潮文庫） 著者：司馬遼太郎，出版社：新潮社

読書は結構好きな方だが、本格的な歴史小説を読んだのは初めてだ。以前、あるテレビ番組で、「日本人の好きな歴史上の人物」の上位に上がっていた土方歳三に興味を持っていたこともあり、司馬遼太郎のこの小説を読むことにした。

新撰組について、幕末に発足した幕府を守るために作られた組織で、近藤勇が局長だということは知っていたが、その他詳しいことは知らなかった。しかし、この小説は新撰組のことを書いているのではなく、あくまで土方歳三の生涯が描かれている。

新撰組の「泣く児も黙る鬼の副長」土方歳三。武州石田村の百姓の子、土方は生来の喧嘩師の性格と組織作りの才能で、浪人や百姓の寄せ集め集団「新撰組」を立ち上げていく。自ら憎まれ役を買って出て、「志道不覚悟は切腹」という規律で隊士を縛り、近藤局長に信頼が向くように仕向けて組をまとめ上げていく。しかし、鳥羽伏見などの大きな戦いを経て、新撰組は解散してしまうのだ。そして土方は戦場を求めて北へ行く。

読んでいる最中から感じていたことは、土方は自分の信念にブレが無い人だと言うことだ。彼には曲がったところが一つもない。思想に踊らされたり、世論に流されたりしない。最初に決めたこと、幕府を守るということをただ最後までやりとおすだけなのだった。

戊辰戦争、函館での戦い、彼が喧嘩師としての本領を発揮するところだが、彼の周りにはもう近藤も沖田もいない。新撰組隊士を次々に逃がし、彼は最後には一人で戦う。なんだかとっても悲しく

なってしまった。

そして最後は、「一生かかって喧嘩してきた薩長土に今更降伏できるか」と潔く死を選んで敵陣に切り込みに行く。最後の最後で「函館政府の陸軍奉行」ではなく「新撰組副長、土方歳三」と名乗る場面では鳥肌が立ち、熱いものが込み上げてきた。この人は本当に自分の武士道に妥協しなかったんだな、と思うと目頭が熱くなった。きっとこのとき、近藤や沖田に恥ずかしくない、と思ったであろう。

私が感じた土方像は、怖いもの知らずの喧嘩師で、無敵で、無愛想で、プライドが高くて、好き嫌いが激しくて、冷血漢で、誰よりも多く人を斬った人。しかし、齋藤や市村に遠回しに「生きろ」と言ったり、自分が生きていたら近藤に会わず顔がないと割り切っていたり、本当に自分にとって大切な心優しい存在だったものに対して、すごく心弱くなる人。しかも、その表し方がすごく不器用にしか伝えられない人。自分の中に一本通した筋を意地でも曲げようとしない人。そんな風に感じられた。

彼はとても優しい人として描かれている。下手な俳句をたしなみ、恋人のお雪に対しての恥ずかしそうな態度といい、温かく深みのある人物として描かれている。このギャップが「好きな歴史上の人物」の上位に上げられる理由の一つかなと思った。

## 2位 「こころ」を読んで 1年4組 佐伯典祐

「こころ」(新潮文庫) 著者: 夏目漱石, 出版社: 新潮社

裏切られることによって、人の心は立ち直れないほど深く傷つく。それがわかっていて苦しさのどん底を味わいながらも、利己心から他人を裏切ることもある。裏切られ、裏切ることで、人の一生はこうまで変わるものなのだろうか。

先生は叔父に裏切られてからというもの、自分以外の人間は信用できなくなっていた。社会生活の中では、誰しも多くの人々とのつながりを必要とするのに、そのつながりを絶とうとすれば、当然のことながら孤独を強いられる。先生の生活はまさにそれだった。

また裏切られるかもしれないという恐怖感が他人に対する不信感を増幅させるし、その心の葛藤に耐えきれない自分が予感できたのかもしれない。

しかし、自らを強固に包んでいたはずの殻にも、わずかながら変化が見られるようになる。殻を溶かしていったもの、それは女性への愛情だった。愛には人生観をまるで変えてしまうだけの力がある。それだけに「人を愛する」ということには慎重にならざるを得ないし、その影響の大きさにも心しなければならぬと思う。人を愛することは簡単なことのようにだが、その真実は奥深く、思考の根幹までも左右してしまうような気がする。

愛に満たされるとき、人にはその防衛本能が働き、知らない間に心を奪われてしまうものだ。先生も例外ではなかった。

こんなとき、心の落とし穴が待ち受けているも

のだ。愛を育てたいが故に自己中心的な考えに陥り、他人の心を考える余裕がなくなってしまう。賢く冷静な判断の持ち主だと思っていた先生が、まるで別人ようになってしまい、親友を裏切ってしまった。自分が愛している女性を、その親友も愛していることを知ったとき、先生は強い衝撃を受けただけでなく、自分の本当の気持ちをその親友には打ち明けないまま、出し抜いてプロポーズをしたのだった。その友人は無念に打ちひしがれて自殺してしまった。

今まで他人に抱いていた不信感は、この瞬間からは自分自身に向けられていった。人は罪の意識にさいなまれるほど苦しいことはない。生きている限り、死んでいった親友と同じ苦しみを味わなければならない宿命を背負ってしまった先生は、自分を責め続ける他は何もなくなってしまった。

人の心は不思議なものだ。どんなときでもさまざまな感情が複雑に交錯していて、まるで生き物のように変化を遂げていく。それは正しいとか正しくないとかいう判断を越えた所でうごめいているようだ。

人は死ぬとき、やり遂げたことに対する後悔が半分、やれなかったことに対する後悔が半分だと聞いたことがある。先生がああとき親友を気遣ってプロポーズをしなかったら、別の苦しみを味わっていたかもしれない。

## 3位 「高瀬舟」を読んで 1年3組 橋本喜勝

「山椒太夫／高瀬舟」(新潮文庫) 著者: 森 鷗外, 出版社: 新潮社

この話を読んでまず頭に浮かんだのは、何かの本で読んだ話です。コップに半分水が入っているのを見て「もう半分しかない」と思うのか、「まだ半分あ

る」と思うのか。事实はコップに半分水が入っている状態だけ、同じ事実を見ても、その人の立場や考え方またはおかれている環境によって随分感じ方が

違ってくるのだと思います。

この「高瀬舟」の中に出てくる罪人も、普通であれば不幸だと思われる状況を幸せだとさえ感じているという不思議な心理状態におかれています。不幸なことを幸せだと感じるには、その不幸よりもっとひどい不幸を経験したことがあるというのが必須条件だと思われます。喜助にとって、今まで生きてきた世界が、罪人として島流しに遇うよりもっとひどい地獄であったことは言うまでもありません。

人間というものは、今ある幸せについて幸せだと思えない生き物のようです。最初は幸せだと思っても、それが当たり前になり日常になってくると、もっと幸せなことがないと幸せとは思えない。逆に当たり前だと思っていることは、失って初めて幸せだったのだとわかることになってしまいます。ここでは、何かの本で読んだ言葉をもう一つ思い出しました。「お金さえあれば幸せだ」と思っている人は、実際にお金がたくさんあっても決して幸せにはなれない。要は心の持ち方一つで人の幸せなんてどうに

でもなると言うことなのかもしれません。他人から見れば、「なんて不幸そうな人だ」と見えるような状況でも意気揚々と生きている人。他人から見て「うらやましい程幸せそうだな」と思えるような状況でも、いつも不満を持っている人。喜助にとっては、島流しよりも日常の生活の方が不幸だったのですから、どれ程地獄のような人生を送ってきたのでしょうか。

最後に喜助の犯した罪について、これもやはり人のとらえ方や立場によって随分ちがいが出てくるのではないかと思います。喜助は決して良い事をしたとは思いますが、そんなに悪いことをしたとは思えません。表面的なほんの一部を見た近所の人は、本質を見ることもなく喜助を人殺しとして役人に報告したのでしょう。しかし、事実は全く違っていません。物事のほんの一部を見て全てを推測してしまうのはとても恐ろしいことだと思います。

## 交流会

平成 24 年 11 月 17 日（土）に美作大学で、美作大学図書館ボランティア、津山高等学校図書部、津山工業高等専門学校図書委員の交流会が開催されました。学生を中心に14名が参加者し、まずは自己紹介、そしてそれぞれの活動報告、意見交換、美作大学図書館案内ツアーなどが行われました。



図書館に関わる取り組みについてはもちろん、その他の事柄についても、情報・意見交換できました。美作大学図書館ボランティアの学生さん達が企画や会の進行、図書館案内ツアーを行ってくれて、終始和やかな雰囲気での楽しい時間を過ごしました。

来年度以降も同様の機会があれば、図書委員になった学生さんはぜひ参加してみてください！！

## 雑誌紹介

### 「Newton」

Newton は株式会社ニュートンプレスから発行されている月刊の科学雑誌です。たくさんの写真や図絵を交えて説明してあるので、科学的なことは苦手だという人も理解しやすい内容になっています。私もこの記事を書くにあたって初めて Newton を読んでみたのですが、すべてカラー・大きな図で誰が読んでも分かりやすい内容になっていると実感しました。

Newton は毎月ひとつのテーマに沿って特集が組まれています。私が読んだ号、2012 年 12 月号は iPS 細胞でノーベル医学・生理学賞を受賞した山中伸弥教授と iPS 細胞について特集されています。山中教授がノーベル賞を受賞すると決まったとき、連日ニュースや新聞などで iPS 細胞は画期的な発明だと繰り返し報道されていました。しかし iPS 細胞がどのように画期的なのか、報道だけでは理解しにくかった人も多いと思います。iPS 細胞のキーワードである『細胞の初期化』『ES 細胞』『四つの遺伝子』など、報道だけでは曖昧で分かりづらかった部分が解説されており、理解しやすいものになっています。さらに、今後 iPS 細胞がどのように利用・応用されていくのか、また iPS 細胞誕生の背景なども記載されていて面白い記事になっています。2012 年 12 月号を例に紹介していましたが、近い将来、日本を襲うと考えられている南海トラフ大地震の想定や、別冊では人体のしくみなど、他にも面白そうなものがたくさんあります。高専の図書館の雑誌コーナーにおいてあるので、この紹介記事を読んで少しでも興味を持った人はぜひ読んでみてください。

### 「旅の手帖」

旅の手帖は旅行情報雑誌です。毎月、日本全国の至る所を旅し、その場所の魅力を伝えています。公式 HP の紹介では、「旅の楽しさ、日本の美しさを伝える旅行雑誌。現地発のオモシロ情報や、現地に出かけたからこそわかる土地の風土を紹介します。温泉、鉄道、ひとり旅……。日本のどこかへ出かけたくになります。」とあります。他の旅行情報雑誌と比べ、静かな旅を提案しています。紹介にもあるように、実際に現地に赴かないとわからないような楽しい情報を紹介したり、その土地ならではの風土を紹介しています。この雑誌に掲載されている写真がとても美しく、ぜひとも現地に赴いてみたくなる旅行情報雑誌ですので、一度手に取ってみてください。

### 「週刊東洋経済」

週刊東洋経済は、東洋経済新報社から週に一回出版されている経済雑誌です。公式の雑誌紹介には「複雑な現代社会の構造が見える化し、日本経済の舵取りを担う方の判断材料を提供する経済誌」とあります。日本で出版されている経済誌は『日経ビジネス』や『週刊ダイヤモンド』等がありますが、それらと比べると、新自由主義や格差社会に対して批判的な視点を持ち、また社会全体の公益・公共善の立場から書かれているため、よりリベラルな記事が目立っています。姉妹雑誌に就職活動に役立つ『会社四季報』や『就職四季報』も是非参照していただきたいと思います。

## 図書館講習会

平成 24 年度に津山高専図書館で行われた講習会を紹介します！！

### 新入生向けオリエンテーション

新入生を対象として、本の借り方・返し方など図書館の基本的な使い方を説明しました。グループで実際に本を探すゲームも行いました。

### 百科事典の活用法

一般の方も対象として、百科事典の魅力、使い方のコツを、実際に百科事典を見てもらいながら説明しました。

### 津山高専図書館の本を検索して探す

津山高専にある本を効率的に探す方法について、OPAC（蔵書検索システム）を使った検索の仕方、検索結果の見方を説明しました。

### 学術論文の探し方

学術論文を探すための、電子ジャーナルやデータベースの使い方について、また他機関からの学術論文の取寄せについて説明しました。

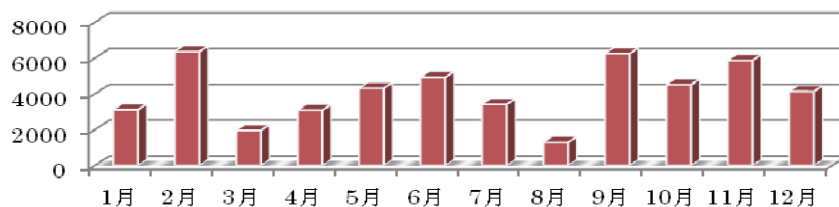
## リポジトリダウンロードランキング 2012

津山工業高等専門学校学術成果リポジトリ (<http://repository.tsuyama-ct.ac.jp>) では、津山工業高等専門学校の学術成果を保存・公開しています！！

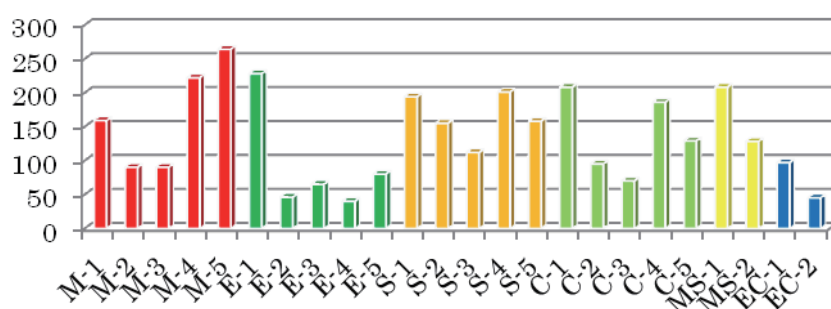
|   | 論題                      | 著者名                  | 掲載誌                             | 発行年  | ダウンロード件数 |
|---|-------------------------|----------------------|---------------------------------|------|----------|
| 1 | 水溶液中への酸素ガスの溶解速度と溶解度     | 樋口敏三                 | 津山工業高等専門学校紀要<br>34号 pp.41-48    | 1994 | 4182     |
| 2 | SiC パワーデバイスの特性評価（第2報）   | 牧野友昭,<br>長井聡         | 津山工業高等専門学校紀要<br>48号 pp.37-40    | 2007 | 1871     |
| 3 | ポリエチレン球晶の光学的性質と内部構造について | 末房清,<br>杉山巍          | 津山工業高等専門学校紀要<br>1巻5号 pp.373-380 | 1968 | 1777     |
| 4 | ボルト・ナットの製図についての一考察      | 重松清,<br>牧暢夫,<br>里吉昭宣 | 津山工業高等専門学校紀要<br>23号 pp.103-106  | 1986 | 1452     |
| 5 | 鉄定量分析の信頼性               | 長船忠夫,<br>吉田慎         | 津山工業高等専門学校紀要<br>3巻3号 pp.361-368 | 1974 | 1439     |

（期間：2012年1～12月）

## 入館者数 2012



## 貸出冊数 2012



(期間：2012年1～12月)

M：機械工学科 E：電気電子工学科 S：電子制御工学科 C：情報工学科

MS：機械・制御システム専攻 EC：電子・情報システム専攻 ※数字は学年を表しています。

## 貸出ランキング 2012

| 順位 | 書名       | 著者              | 出版者  |
|----|----------|-----------------|------|
| 1  | 創造力育成の方法 | 塚本真也            | 森北出版 |
| 2  | ロボット工学   | 早川恭弘, 櫛弘明, 矢野順彦 | コロナ社 |
| 2  | 恋物語      | 西尾維新            | 講談社  |
| 4  | 電気回路の基礎  | 西巻正郎, 森武昭, 荒井俊彦 | 森北出版 |
| 4  | 集積回路設計入門 | 國枝博昭            | コロナ社 |

(期間：2012年1～12月)

## 編集後記

今年度の図書館報も皆様にお楽しみいただけたのではないのでしょうか。今年度の図書館報は先生方の推薦図書や図書委員の推薦図書、学生の読書感想文、図書館の雑誌の紹介文など、例年と同様の記事を中心に編集しました。お読みいただいた方々には、図書委員の活動に、より一層ご興味を持っていただけたのではないのでしょうか。

お忙しい中、原稿を書いてくださった先生方、職員の方々には、この場を借りて厚くお礼申し上げます。また、図書館報の作成に尽力していただきました図書館職員の方々、図書委員の皆様にご感謝いたします。皆様、本当にご協力有難うございました。(情報工学科5年 大家)